

2020年度 消費生活アドバイザー資格試験

論文試験問題（第2時限）

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 1. 制限時間 | 60分 |
| 2. 制限字数 | 800字以内(ただし600字以上
記述することが望ましい) |

(2020年11月29日実施)

消費生活アドバイザー資格試験は、消費生活相談員資格試験を兼ねて実施します。

(受験上の注意)

1. 受験中は、受験票および写真付身分証明書を必ず机に出しておいて下さい。
2. 受験中は、携帯電話等の通信機器の電源を必ず切って下さい。
3. 筆記用具は、HB以上の鉛筆、シャープペンシル、消しゴムを使用して下さい。
4. 参考書・電卓等、3.で記載の筆記用具以外の使用を禁じます。
筆箱等のケース類も机の上に置かないで下さい。
5. 論文試験用紙に受験番号と氏名を必ず記入して下さい。
6. 選択した論題番号(5～8)を必ず論文試験用紙の論題番号欄にご記入下さい。
7. 試験内容に関する質問には一切お答えいたしません。
8. 途中退出する場合は、論文試験用紙を試験監督員に提出して静かに退席して下さい。

一般財団法人日本産業協会

【禁無断転載】

次の論題4題（5～8）の中から1題を選択して記述しなさい。なお、選択した論題番号を論文試験用紙の論題番号欄に記入しなさい。

(論題番号)



<経済一般>

5. 近年、AI（人工知能）の進歩に注目が集まっている。これにより私たちの生活の利便性が上昇することが期待されるものの、その一方で労働市場においては私たちの仕事（労働）の一部が奪われることに繋がるのではないかという懸念を生み出している。このことから、人間にしかできない仕事やAIと共存できる仕事の模索にも注目が集まっている。

このような背景を踏まえ、AIの進歩が私たちの生活にどのような影響を及ぼし得るか、雇用政策等も踏まえ労働市場においてどのような影響があり得るかという観点を中心に述べなさい。その際、労働市場の需給関係や雇用のミスマッチなどに言及して説明すること。

※必要に応じて論文試験用紙の右下部分ヨコ12文字×タテ7行程度のスペースを使用し、説明のための図を描いても構いません。

<企業経営>

6. イノベーションを通じて社会的課題を解決することは、企業に求められる重要な取り組みの1つである。そこで以下の2つについて論じなさい。
- (1) 特定の社会的課題の解決に資するイノベーションが、他方で新たな社会的課題を生み出すことがある。こうしたケースに該当する具体例を1つ取り上げ、その内容を説明しなさい。
- (2) その上で、社会的課題の解決を目指す企業は、いかなる取り組みをすべきかについて論じなさい。

<生活経済>

7. 国民経済における家計の位置と役割について、以下の語句を全て用いて述べなさい。なお、語句を用いる順序は問わないが、用いた語句に下線を引くこと。

語句：家計、企業、政府、経済主体、家計消費、国内総生産

(論題番号)



<環境・エネルギー>

8. 下に示す伝票は、令和2年6月分のある電気事業者からの電気の使用量のお知らせのうち本問題に関係する部分を切り抜いて示したものである。それぞれが購入している電力の販売会社によってスタイルの違いはあるが、請求金額の内訳には「再エネ発電賦課金」の表示がある。

再エネ発電賦課金は再生可能エネルギー発電促進賦課金のことであり、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度 (FIT)」を実際に運用するためのものである。以下の3つについて述べなさい。

- (1) 再エネ発電賦課金は何のために必要なのか。
- (2) 電気の利用者にとってどのような意味があるか。
- (3) 再エネ発電事業者にとってどのような意味があるか。

地点番号				様	
電気ご使用量のお知らせ					
ご使用場所					
2年6月分	ご使用期間 検針月日	5月9日～6月7日 6月8日 (30日間)	ご契約種別	従量電灯B	
ご使用量	226kWh		ご契約	40A	
請求予定金額 (うち消費税等相当額)	6,477円 588円		当月指示数	7482	
上記料金内訳	基本料金	1,144円00銭	前月指示数	7256	
	電力量料金		差引	226	
	・1段料金	2,385円60銭	計器乗率(倍)		
	・2段料金	2,806円88銭	取替前計量値	969	
	・燃料費調整額	-476円86銭	計器番号(下3桁)		
再エネ発電賦課金	673円	昨年6月分は29日間で 211kWhです。 今月分は1日あたり 3%増加しています。			
口座振替割引	-55円00銭	燃料費調整のお知らせ (1kWhあたり)			
		6月(当月)分 -2円11銭			
		7月(翌月)分 -2円44銭			
		翌月分は当月分に比べ -0円33銭			